

九月になって普代村内でも、群生するイヌタデに出合う。お祝いなどにつくる赤飯にたとえてアカノマンマ他の別称があるように紅葉のかわいい花が、穂のように密生してつくから、よけい目立つのである。

以前はママゴトアソビの材料で女の子たちは、喜んで摘み取っていたが、今はあまり見ることではできない。どこにでも生える雑草で、刈っても刈っても勢よく伸びてくる、厄介ものである。自然のなせる業と

普代の植物散歩

⑱



「イヌタデ（たで科）」

大森 竹之助さん（71歳・久慈市在住）



普代浜周辺（写真：大森さん提供）

はいえ、風雨荒びく土いきれに、あふれる生命力は伸びやかで、人の無力をつくづく思う。

ところで名の由来は、食用にならないタデの意味からだそうである。でも茎や葉は煎じて解毒・駆虫に利用し、また昔はタデ類を燃やして灰をとり、カイロの灰に使われた。カイロ灰は粉木炭にヨモギやタデの灰を混ぜて作ったと聞いています。

「ダンスやりたいねえ」

こしょうじくのみつ
小正路邦光さん（黒崎・75歳）



土曜、あじろ、おぼろ、おぼろ、おぼろ

《264》
★：十八歳のころ八戸市のイガ釣り船に乗ったねー。そんなとき、浜がしけで船が津軽海峡に落ちてさー、三時間も泳いだったがー。★：そすて二十歳ごろ神奈川県横浜市に出稼ぎに行ったねー。けん引船の機関長をやったよー。横浜には十年以上いだがなー。船を降りれば社交ダンス、将棋、詩吟。趣味がいっぱいあつてさー。★：五十歳で普代さ戻つてからは船員年金で暮らしてよー。今は家でテレビを見たりデイサービスに通つたりしてんども、やっぱりダンスーやりたいねー。



文芸の世界

川柳愛好会
八月例会作品

趣味一つ竹の花籠作れます
悪口を横で聞いている遠い耳
ロボットに似た者同志旅に出る
習慣と思えば楽し北の里
ふる里の母の持ち味胡瓜もみ
遊歩道に本陰に欲しい椅子一つ
まだできぬ一日一句の習慣化
充実の一日で褒美はお風呂
願い事竹のしなりがバネになる
聞く耳をもたぬ頑固に脱帽し
ロボットのががほしい我が体
子孫等に囲まれ心満ちてくる
持ち味の母の料理が舌に合
しきたりを無視して溝を深くする
愚の我にあって欲しいと充実さ

三上 翠香
深渡 汀女
太長根英子
嵯峨 待女
加差野静浪

第28回村民運動会 10月10日(日)
多目的グラウンド(白井) ※雨天時は11日に順延

